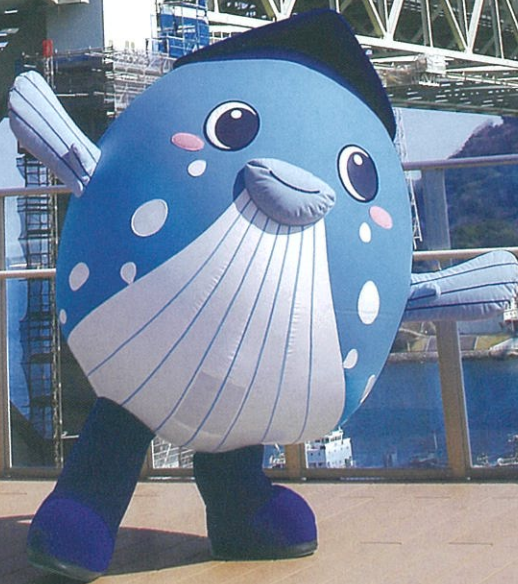




しおさい
潮彩かある海
峡と歴史のまち

下関市

市
勢
要
覧



ごあいさつ

下関市長
前田 晋太郎



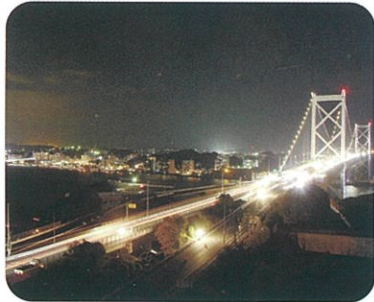
赤間神宮



城下町長府



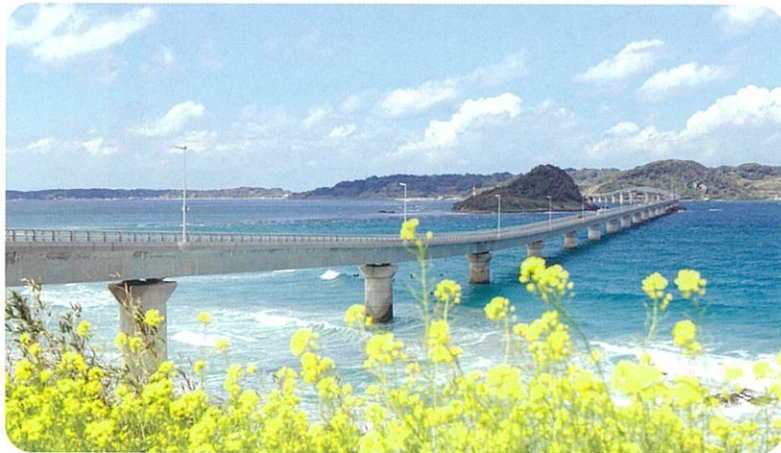
市立しものせき水族館 海響館



関門橋



巖流島 武蔵と小次郎



角島大橋

下関市は、関門海峡、周防灘、響灘と三方が海に開かれた自然と文化に恵まれた海峡と歴史のまちです。日本が武家社会へ転換する契機となった「源平壇之浦の合戦」や明治への大きな転換期の始まりとなった「下関四国艦隊砲撃事件（下関戦争）」が起こるなど、日本の歴史の節目に下関が登場してきました。また、市内には、武蔵・小次郎決闘の地「巖流島」や、維新の志士・高杉晋作拳兵の地「功山寺」といった歴史の舞台となった地も所在するほか、坂本龍馬が、終の棲家として居を構え、愛妻お龍と共に過ごすなど下関の地でさまざまな歴史が繰り広げられました。

さて、下関市では、平成27年度から第2次下関市総合計画がスタートしました。第2次総合計画では、まちづくりの基本理念を「まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ 輝き海峡都市・しものせき」とし、誰もが未来に希望を感じることできる「希望の街 下関」の実現を目指します。令和5年度も熱意とスピード感を持って市政運営に取り組むとともに、さまざまな課題にも真摯に向き合い、未来につながる希望の風を感じ取っていただけるよう、全力を傾注していきます。

この要覧は、美しい景観と深い歴史、文化を有する本市の魅力など、都市（まち）の姿をわかりやすく紹介したものです。この要覧が下関市への理解を深めていただく一助となれば幸甚です。

市の花ハマユウ



市の花木 ツツジ



市の魚 フク



市の動物 クジラ



市の木クスノキ



市の花木 サクラ



市の虫 ホタル



市の鳥 ペンギン





下関市プロフィール



地勢等自然条件

下関市は、本州最西端部に突き出た半島状の地形で、東南に周防灘、西に響灘と海に面し、南は関門海峡を隔てて対岸の北九州市と、東は陸続きで山陽小野田市、北は長門市と接しています。

地勢は、大部分が豊浦山系の支脈をなす山地と、標高 100 m 以下の丘陵からなり、平野に乏しい起伏の多い地形で、標高 300m 程度の山々が連なる丘陵地帯や、山林地帯、平野地帯が存在する豊かな自然環境に恵まれた地勢となっています。

気候は、対馬暖流の影響を受け、一年を通じて温暖ですが、冬季には、日本海側と内陸部は日本海側気候の特徴が現れ、風が強く、比較的寒い気候にあります。

市域の総面積は 716.18 km² (令和 4 年 4 月 1 日現在：国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」) です。

都市形態

下関市は、本州と九州、また、大陸との接点でもある地理的条件から、交通の要衝として古くから栄え、大正、昭和の時代の変遷とともに周辺の町村との合併を繰り返すことにより市域を拡大してきました。平成 17 年 2 月 13 日には、旧下関市と豊浦郡 4 町との新設合併が行われ、商工都市、港湾都市、農業都市、水産都市、観光都市などのいくつもの性格を持つ、県下最大の新「下関市」が誕生しました。また、同年 10 月には県下初となる中核市に移行しました。

主要道路は、山陽側の国道 2 号及び国道 9 号、山陰側の国道 191 号、内陸部の国道 491 号、国道 435 号で、広域交通道路網としては中国自動車道、山陽自動車道が整備されているほか、関門国道トンネル、関門橋によって九州と陸路で結ばれています。

鉄道交通は、南部の瀬戸内海沿いに JR 山陽本線が、西部の日本海沿いに JR 山陰本線が縦断しており、山陽新幹線の停車駅である新下関駅が市街地北部に所在しています。

バス交通は、市街地を中心に民間事業者が路線バスを運行しており、菊川・豊田・豊北の各地域では、生活バスが運行されています。

海上交通は、本市(唐戸棧橋)と北九州市(門司港)を結ぶ関門連絡船が就航しており、また、下関と中国、韓国を結ぶ国際定期航路も就航しています。

市域の南部には、化学工場、輸送用機械器具製造業及び食料品製造業が立地しています。市域の北部は、農業地帯を形成しており、主に都市近郊型農業が営まれています。響灘海域では沿岸漁業、周防灘海域では主に浅海養殖業が営まれ、生鮮食品の供給源となっています。

また、東アジアなどとの総合的な交流を図るため、国際物流基地として整備した沖合人工島「長州出島」は、国際クルーズ拠点としても整備を進めています。

人口

下関市の人口は、平成 27 年の国勢調査(10 月 1 日現在)では、268,517 人でしたが、令和 2 年の国勢調査(10 月 1 日現在)では、255,051 人となっており、約 5% 減少しています。

世帯数は、平成 27 年の国勢調査(10 月 1 日現在)では 116,298 世帯でしたが、令和 2 年の国勢調査(10 月 1 日現在)では、115,817 世帯で、一世帯当たりの人数は 2.31 人から 2.20 人に減少しています。

また、65 歳以上の人口は、全人口の約 35.8% となっており、高齢化が進行しています。

産業

下関市の就業人口は、平成 27 年 10 月 1 日現在で 123,392 人となっており、減少傾向にあります。

産業別従業者数割合では、第 1 次産業が約 0.9%、第 2 次産業が約 21.6%、第 3 次産業が約 77.5% となっています。

第 1 次産業従業者は、消費量や生産物価格の低迷、機械化等により、昭和 35 年以降減少を続けていましたが、近年、概ね横ばいの傾向にあります。

第 2 次産業従業者は、昭和 50 年まで増加傾向にありましたが、これ以降は減少傾向に転じています。しかしながら、第 2 次産業の市内総生産や、基幹産業である食料品、輸送用機械器具を中心とする製造業の製造品出荷額等は、近年、概ね横ばいの傾向にあります。

第 3 次産業従業者は、下関市は県内で最大の人口規模の都市であることから、人口規模の影響が大きいと考えられる卸売・小売業、金融・保険業、不動産業及びサービス業の集積が進み、従業者の割合は増加傾向にありますが、市内総生産は概ね横ばいの傾向にあります。

下関市統計データ



下関市の統計



人口と世帯数



令和 5 年度予算の状況

市章及び下関市メインキャラクターの紹介

■市章

“しものせき”「し」「も」の平仮名をダイナミックにデフォルメし、1 市 4 町の合併により誕生した新「下関市」の調和を五つのラインで表現しています。



全体的なフォルムは、全国的に名高い「フク」を表し、豊かな自然と世界へ通じる海峡の街、交流の帆として、市民の未来に無限の可能性を秘めた表現となっており、「自然と歴史と人が織りなす下関市」を个性的にアピールしています。

■下関市メインキャラクター せきまる

市の魚「フク」と市の動物「クジラ」をモチーフに考案されたキャラクターです。下関市のさまざまなキャラクターを代表するメインキャラクターを制作するため、デザイン公募を実施し、応募のあった作品 345 点の中から市民投票を経て選ばれました。フクのような小さな口と、下関愛が膨らんで丸くなった体、クジラの尾ひれが特徴です。



令和 3 年 3 月に、下関市のキャラクターたち 23 体の中から下関市 PR 本部長に抜てきされ、下関市のプロモーションに奔走中です。

第2次下関市総合計画2015～2024

まちづくりの基本理念

まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ
輝き海峡都市・しものせき

下関市には、自然がもたらす豊かな恵み、
先人たちが培ってきた歴史や文化など特徴的な資源が数多く存在します。
これらは、他に類を見ないまちの誇りであり、貴重な財産です。
誇りある「ふるさと下関」で暮らす幸せをより実感し、
愛着を深め、知りたい、行きたい、住みたい魅力あるまち
「輝き海峡都市・しものせき」の実現を目指します。



まちづくりの将来像

01 魅力あふれる人・文化を育み、 いきいきと交流するまち

文化・スポーツの振興、観光・レクリエーションの
振興、連携・交流の推進、国際化の推進、都市全体
の価値
・魅力
向上。



02 多彩な人が輝き、 活力ある産業が振興するまち

農林水産業の振興、商工業の振興、就業支援策の強
化。



下関市民憲章(平成19年2月13日制定)



わたしたちは、美しい自然と
古い歴史に恵まれたふるさと下関市を愛します。
わたしたちは、下関市民であることに
誇りと責任をもって、互いに心を寄せ合い、
新しい理想のまちづくりをめざして
この憲章をかかげます。

わたしたちは、**し** 自然の恵みを大切にします。
わたしたちは、**も** 燃え立つ心を大切にします。
わたしたちは、**の** 伸びゆく力を大切にします。
わたしたちは、**せ** 先人の訓えを大切にします。
わたしたちは、**き** 協働の営みを大切にします。

03 みんながともに学び、 ともに楽しむ、人を育てるまち

子ども・子育て支援の充実、一人ひとりの生きる力の育成、学校の教育力の向上、社会全体の教育力の向上、生涯を通じた学ぶ機会の提供、人権教育・啓発活動の充実、男女共同参画の推進。



04 美しく潤いのある自然や まちなみと人が共生するまち

自然環境の保全、良好な景観の形成、廃棄物処理の推進、住環境の整備。



05 効率的で活動しやすい 都市機能を備えるまち

市街地の整備、公共交通の整備、道路の整備、公園・緑地の整備、情報・通信の整備、港湾の振興。



06 誰もが安全で 安心して暮らせるまち

生活安全の推進、公衆衛生の充実、道路・橋梁等老朽化対策の推進、上水道の整備、下水道等の整備、河川・海岸環境の整備。



07 人と人が支え合う 誰もが健やかで笑顔があふれるまち

保健・医療の充実、地域福祉の充実、高齢者福祉の充実、障害者福祉の充実、低所得者福祉の充実。



08 人のつながりを大切にし、 地域の力が活きるまち

地域のまちづくりの推進、市民活動支援の推進、行政機能の充実、行財政の健全化。



国際交流…姉妹・友好都市



サントス市、イスタンブール市、釜山広域市、青島市、ピッツバーグ市

世界の5つの都市と姉妹・友好都市の盟約を結び、さまざまな国際交流活動に取り組んでいます。



サントス市(ブラジル)



イスタンブール市(トルコ)



釜山広域市(韓国)



青島市(中国)



ピッツバーグ市(米国カリフォルニア)

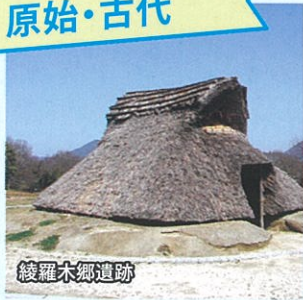
下関のあゆみ

日本の時代をリードしたまち・下関

下関市は三方を海に開かれ、本州と九州の結節点として栄えました。また大陸の近くに位置することから、中国や朝鮮半島などと交流が盛んに行われていました。源平の合戦や幕末維新の挙兵など歴史の節々で登場するまちが下関です。ここを舞台にさまざまな歴史が繰り広げられました。



原始・古代



綾羅木郷遺跡



土井ヶ浜遺跡

響灘沿岸では数多くの弥生時代の遺跡が発掘されています。地理的に大陸に近いので、早くから大陸の文化がこの地を通じて日本に渡来しました。

奈良時代



長門鑄銭所跡



和同開珎

長府は、律令時代に、長門の国の国府と定められ、国衙が置かれました。また国分寺が設けられ、長府鑄銭所跡の遺跡も発掘されています。

武家社会の誕生



源義経像(みもすろ川公園)



壇の浦古戦場址の碑(みもすろ川公園)

下関の彦島に最後の拠点を設けた平家。源氏と雌雄を決する合戦が1185年(寿永4年)、壇ノ浦で行われました。平家はここに滅びました。

鎌倉時代



功山寺仏殿

平家の残党の追討を担った土肥次郎実平は、長府に居を構え、ここに城下町長府の歴史が始まります。鎌倉時代末期に建立された功山寺仏殿は国宝に指定されています。



ふくと言えは下関。下関と言えはふく



下関を代表する味覚といえば、フグ。福を招くよう、下関では「ふく」と呼ばれます。下関とふくの間には長い歴史があります。市内の貝塚からふくの骨が見つかり、2000年以上前からふくが食べられていたことがわかっています。

戦国時代に豊臣秀吉が最初にふく食を禁じたのも、明治時代、総理大臣・伊藤博文がふく食を解禁したのも下関でした。「海峡と歴史のまち」下関を訪れた多くの人々に食を楽しませたのがふくです。

南風泊市場には「天然ふく」「養殖ふく」が国内各地から集荷され、毒を除去する「磨き(身欠き)」という加工が行われ、全国へ出荷されています。平成28年10月、「下関ふく」の名称が、地理的表示(GI)として国に登録され、品質においてもお墨付きを得ることができました。

下関では、ふく刺し、ふくちり、唐揚げ、ひれ酒、白子など、本場のふく料理を楽しむことができます。



室町時代



住吉神社本殿・拜殿

毛利元就は、戦国の世において中国地方を支配しました。下関を拠点に九州にも攻め入っています。住吉神社の拜殿は元就が寄進したもので重要文化財に、本殿は国宝に指定されています。

江戸時代



城下町長府（古江小路／管家長屋門）

関ヶ原の合戦に敗れた毛利秀元は、1600年（慶長5年）、長府に3万6千石の城下町を開きました。また、下関は、北前船の寄港地として栄え、「西の浪花」と呼ばれるほど出船入船でにぎわいました。

幕末・維新



長州砲（みもすろ川公園）

維新の志士高杉晋作は、奇兵隊を率いて長州藩を倒幕に導きました。1863年（文久3年）長州藩は攘夷のため、関門海峡を通過する外国艦船に砲撃を行い、これをきっかけに下関（馬関）戦争が始まりました。

明治

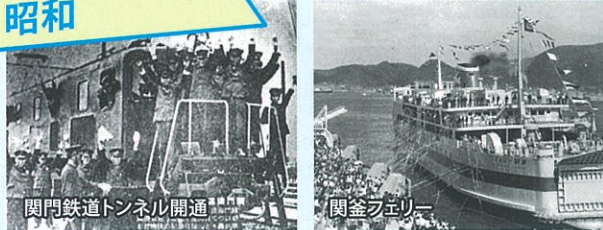


関釜連絡船

日清講和記念館

1889年（明治22年）に赤間関市（現在の下関市）は全国の31市とともに日本で最初に市制を施行しました。1895年（明治28年）には日清講和会議が開催され、下関条約が締結されました。明治になると、山陽鉄道の開通や関釜連絡船の就航などにより、海陸交通の拠点として発展しました。

昭和



関門鉄道トンネル開通

関釜フェリー

下関は、戦前戦中には大陸への出発基地として重要な役割を果たしました。1942年（昭和17年）には世界初の海底トンネル「関門鉄道トンネル」が開通しました。空襲により市街地が大きな被害を受けたものの、戦後にめざましく復興し、関釜フェリーの就航など新時代の国際交流が始まりました。

平成



市立しものせき水族館「海響館」オープン

海峡メッセ下関や市立しものせき水族館「海響館」のオープンなど国際会議観光都市としても魅力ある街となりました。また、2005年（平成17年）に1市4町が合併し、新「下関市」が誕生しました。同年、県下初の中核市に移行しました。



日本一のくじらのまち発信!!



下関市は、古くからくじらとの関わりが深く、今から2千年以上も前（弥生時代中期頃）の遺跡から、くじらの骨でできた道具が出土しています。

明治時代には、船に積んだ捕鯨砲でくじらを捕獲する近代式（ノルウェー式）捕鯨が各地で試みられるようになり、日本初の近代式捕鯨会社の出張所などが下関に置かれたことから、本市は近代捕鯨発祥地と呼ばれています。

太平洋戦争後、下関は捕鯨会社の南水洋捕鯨基地、鯨肉の流通・加工基地として発展し、昭和30年代後半のピーク時には年間約2万トンを超える鯨肉が陸揚げされ、捕鯨は、水産都市・下関の発展の一翼を担ってきました。

しかし、昭和63年に、日本は商業捕鯨の停止に追い込まれ、これ以降は、南極海や北西太平洋での捕鯨は規模の小さな調査捕鯨に限られました。令和元年6月に、日本は、

国際捕鯨委員会（IWC）を脱退し、同年7月から、31年ぶりに商業捕鯨を再開していますが、これまでの間も、下関市は、市民のアイデンティティである「くじら文化」を次世代に継承し、鯨産業の発展のためにさまざまな事業に取り組んできました。

平成13年に開館した水族館「海響館」には、全長約25メートルの「シロナガスクジラ」の実物骨格標本を国内で唯一展示し、平成14年には、国際捕鯨委員会（IWC）年次下関会合が開催され、平成10年からは学校でのくじら給食の提供などの取り組みも進めてきました。

現在、下関市は、国内で唯一の沖合商業捕鯨基地として、再び鯨肉流通・加工の拠点の役割を担っています。令和2年には官民で下関市鯨肉消費拡大推進協議会を設立しました。また、令和4年には新たな捕鯨母船の建設が決定し、母港化への大きな一歩となりました。今後も、鯨産業の活性化を図り、「くじらのまち・下関」の歴史・文化や、捕鯨を取り巻く状況を広く知っていただくために世界に向けて情報発信を続けます。

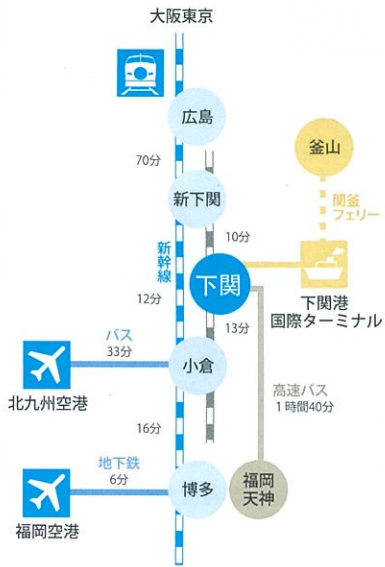




SHIMONOSEKI MAP



ACCESS



下関市 観光情報



下関市 ホームページ



下関市公式 インスタグラム



下関市公式 Facebook



下関市公式 Twitter



下関市公式 LINE



編集・発行

下関市総合政策部広報戦略課
〒750-8521 下関市南部町1番1号 TEL.083-231-1111
メール sskohoko@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

下関市ホームページ <https://www.city.shimonoseki.lg.jp>
法人番号:4000020352012
令和5年3月発行 印刷 株式会社吉村印刷